

六月十四日

朝、真栄寺の昭道さんにいささかの相談。九時世田谷発。

十時大学レクチャー準備。今日は一つの建築が出来るまでの、紆余曲折、小歴史、外からの力、内からの力というような事を講じる。淡路山勝工場を巡り、山口勝弘という一人の芸術家が私に与えているイメージから出来た建築の話し。

十二時迄レクチャー。山口勝弘氏の最近の絵画作品等を最後に見せた。自分の為にもなった。明日は一ノ関ベーシーで坂田明のライブがある。友岡社長と共の猪苗代鬼沼行の帰りに寄ってみるつもり。午後、チリからの留学生アベルのチリでの小住宅処女作のプレゼンテーションを受ける。彼は三〇才、新しい世代の建築家だ。いずれカバールコラムで紹介するが、仲々良い。

夜、西調布でNさんに会う。二十二時半世田谷村。

六月十五日

六時二〇分起床。朝食をすませ友岡親子の車を待つ。眠い。

東北道を走り、十四時前湖南町の現場到着。十六時過迄現場で少しアドバイス。コンテナ四ヶとコルゲートを組み合わせた小建築は全て友岡社長のアイデアですすめているので、私はホンの少しの助言をするだけである。デザイン、表現としては、マア、大変問題のあるB級建築だが、私の持論である開放系技術建築としては仲々良いのである。私もようやくにして、その辺りの事はハッキリと解ってきたので、大いに満足した、と割り切ってみた。

しかし、マア、美しくはないのである。二、三助言したのは構造的な助言が主であったが、それは同時にもう少し美しいようにという、考えが入ったの事。コルゲート部分とコンテナを緑のじゅうたんでカバーするように助言したのは、時代の趣向に合わせたのだろう我ながら。この辺りは自分でも少し怪しい。帰途につきも、東北道に入るところで、事故による道路封鎖、再開のゴチャゴチャがあり、結局一ノ関に向かう。一ノ関ベーシー着二十時頃。坂田明のライブはすでに始まっていた。いささか疲れてはいたが、坂田のライブに参会できて良かった。二十一時半ライブ終了。坂田明と再会を互いに喜ぶ。坂田の息子の学のドラムが仲々いかしてたな。ベーシー近くの大晶苑で菅原昭二、坂田明、高橋さん等と焼肉を食べ、二十三時過一ノ関発。東北道を走り抜いて東京に戻る。友岡社長Jr.は全行程一人で運転、少したくましくなったな。

六月十六日

四時十五分世田谷村帰着。マア、良く走ったね。すぐに倒れるように眠る。十六時研究室。気仙沼の昆野武裕氏来室。彼は十七八年前の私の気仙沼通い開始のきっかけを作った人物で、お互い年をとったねと、あいさつ。彼は気仙沼のリアス・アーク美術館副館長になっている。気仙沼の沈滞、無風は底知れぬものがあるようだ。十七時若松氏来室。十九時近江屋でソバを食べながらモスクワの話し、その他。二十一時過世田谷村に戻る。